


団体名	平谷川のホタルを守り育てる会		
団体の所在地	三田市	代表者名	山下 義和

1. 事業名	平谷川のホタルを守り後世に伝えよう
2. 実施期間	平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日
3. 主な実施場所	兵庫県三田市あかしあ台二丁目 平谷川ホタル苑地
4. 活動形態	・普及啓発活動 ・実践活動
5. 活動内容・結果 (参加者、階層・人数等)	<p>①6月に三田市小柿(羽束川)で支援者の協力を得て、種(親)ホタルを採取  ②親ホタルは3日で産卵するので、その後は元の場所に戻し余生を生きる。  ③採取した卵を孵化させ、大きくなるまで育てて平谷川、羽束川、苅藻川に放流した。  ④6月には鑑賞会・学習会を実施して自然保護の大切さを啓発している。  ⑤平谷川はシーズンを通して小学校や地域の環境学習の場としても役立てている。  ⑥ホタルの餌となるカワニナ貝の育成も通年で行っている。  ⑦6月になると毎年70匹前後のホタルが舞っている(推定発生数約200匹)  ⑧ゆりのき台小学校3年生児童約100名による環境体験学習を実施(年間)  ホタルの生態学習、カワニナ採り、ホタルの卵を孵化させ教室で幼虫を育て放流した。  ■ホタルの幼虫は真夏の水温上昇に弱いので、既に完成している幼虫育成水路を、遮光、遮熱する必要がある。そのため昨年まではヨシズを使用していたが、ヨシズは真夏には適した材質であるが、それ以外のシーズンでは逆に紫外線を遮断しすぎる。幼虫を適切な環境で育てるために、今年度からは遮光・遮熱材として木材ラティスとヨシズを併用する工事を実施した。</p>
6. 成果・反響・反省点等	<p>環境体験学習において、ゆりのき台小学校児童たちは半年間で約1500匹の幼虫を育て放流し、その様子は、朝日、毎日、神戸新聞などに掲載された。  活動は平谷川のホタルを守り育てる会メンバーだけではなく、あかしあ台小学校放課後クラブ、あかしあ台子供会、などとも連携している。また奥須磨公園にトンボを飛ばす会、仁川台クラブ、宝塚エコネット、青谷川ホタルと河鹿の会、福田川エコクラブ、五色町商工会、温泉町商工会、苅藻川の環境を守る会、などへホタル保護の支援活動を実施した。  ■平谷川を学習の場とした、学校連携・地域連携による環境学習の継続実施  ■多くのホタル鑑賞者に自然環境保全の大切さを啓発できた。  ■ホタルを育てるプロセスで自然の生き物が繋がっていることを確認してもらえた。  ■平谷川の美化と苗木植栽の継続により河川環境整備に役立てられた。  ■種ホタル提供と幼虫放流により農村部とニュータウンの連携・交流が生まれた。  ■ホタル鑑賞により、つながりの薄い近隣住民の地域コミュニティが形成に役立った。  ■ホタル保全に取り組む県内の他団体と連携が組めた。</p>
7. 成果物	
8. 活動写真説明	 <p>放流会、学習会の様子です。</p>